

学校支援ボランティア活動事例集

目次

はじめに	・・・・・・・・・・	1
青葉区役所地域振興課からのメッセージ	・・・・・・・・・・	1
活動事例		
青葉台小学校	子どもとともに学びあうボランティア	・・・・・・・・・・ 2
あざみ野第一小学校	先生の思いを保護者と地域の方がサポート	・・・・・・・・・・ 2
あざみ野第二小学校	活発な図書ボランティア	・・・・・・・・・・ 3
市ヶ尾小学校	クラブを通じた育てのてつなぎ	・・・・・・・・・・ 3
美しが丘小学校	豊かな人材 顔の見えるボランティア	・・・・・・・・・・ 4
美しが丘東小学校	伝統を受けつぎ、未来を拓く	・・・・・・・・・・ 4
荇子田小学校	個に応じた教育の支援	・・・・・・・・・・ 5
荇田西小学校	地域と一体になった多彩な学校支援	・・・・・・・・・・ 5
榎が丘小学校	ワールドルームが英語活動推進のお手伝い	・・・・・・・・・・ 6
恩田小学校	「本を読んでも君が好き」	・・・・・・・・・・ 6
桂小学校	教室にこだまする英語活動	・・・・・・・・・・ 7
鳴志田第一小学校	親がも子がもと地域の輪	・・・・・・・・・・ 7
鳴志田緑小学校	ふるさと村の心に抱かれて	・・・・・・・・・・ 8
鉄小学校	地域に支えられた伝統の稲作・食育活動	・・・・・・・・・・ 8
嶮山小学校	「はなみずき」による多種多様な協力	・・・・・・・・・・ 9
さつきが丘小学校	ボランティアは強力な学校支援者	・・・・・・・・・・ 9
新石川小学校	まちの人が先生	・・・・・・・・・・ 10
すすき野小学校	今、芽吹きの時	・・・・・・・・・・ 10
田奈小学校	トランペット鼓隊を支える地域ボランティア	・・・・・・・・・・ 11
つつじが丘小学校	よりよい学校環境づくりをめざして	・・・・・・・・・・ 11
奈良小学校	ならの子を本好きにする仕掛け人たち	・・・・・・・・・・ 12
奈良の丘小学校	シニアが得意分野を活かして	・・・・・・・・・・ 12
東市ヶ尾小学校	国際交流教室で発展学習	・・・・・・・・・・ 13
藤が丘小学校	世代を超え	・・・・・・・・・・ 13
みたけ台小学校	子どもの成長を応援する「みたけ夢教育応援団」	・・・・・・・・・・ 14
もえぎ野小学校	シニアから広がるボランティア活動	・・・・・・・・・・ 14
元石川小学校	子どもの安全を守る「元石川小学校学援隊」	・・・・・・・・・・ 15
山内小学校	長い歴史の上に新しい力	・・・・・・・・・・ 15
谷本小学校	谷本の森に生まれて	・・・・・・・・・・ 16
まとめ	・・・・・・・・・・	17
青葉区小学校位置図	・・・・・・・・・・	18

はじめに

私たち「あおば学校支援ネットワーク（ASN）」は、学校・教育支援活動に関わるボランティアと学校をつなぐコーディネーターのネットワークとして、子どもたちの視点にたったより良い学校教育活動を支援することを目的に、平成17年4月に結成いたしました。

私たちの活動の柱として、昨年10月より青葉区内の小学校を訪問し、各学校で活動している学校ボランティアの様子やボランティアの活用・地域との関わりについて、校長先生をはじめ学校現場の方々にお話を伺ってまいりました。その際にお聞きした情報をもとに、このたび、特色ある学校支援ボランティア活動の一部を取り上げ、「学校支援ボランティア活動事例集」を作成しました。子どもと関わる学習活動や体験活動に関する多彩な学校支援ボランティア活動事例や情報を掲載していますので、皆様の活動の一助にいただければ幸いです。

家庭や地域の支援活動を通して、学校・家庭・地域が連携・協働し、それぞれが多様な学びや体験の場を提供することにより、青葉の子どもたちが、「学びたいこと」「体験したいこと」にたくさん出会えるように、また私たち一人ひとりの持てる力を合わせることで、すべての青葉の子どもたちが健やかに成長していくことを願って皆様にお届けいたします。

平成18年3月1日

あおば学校支援ネットワーク

青葉区役所地域振興課からのメッセージ

「まちと共に歩む学校づくり」を一層発展させるためには、地域にいらっしゃる豊かな人材の豊富な知識や経験を学校教育に取り入れ、学校の教職員と共に教育活動や教育環境の整備を進めることが強く求められています。学校支援ボランティア・コーディネーターは学校とボランティアの間に立って学校側のニーズに応じてボランティア活動を企画したり、活動に適した人材の紹介などを行います。

青葉区では、昨年3月に、コーディネーターの養成講座を開催し、この講座に参加された方々が、ネットワークを結成して知識の向上や情報交換を図っています。あおば学校支援ネットワークでは学校図書ボランティア交流会を開いたり、各学校を訪問して学校が求めているボランティア活動について調査したりしました。

「学校支援ボランティア活動事例集」は、この調査結果をはじめ、ボランティアの学校での活動内容がたくさん盛り込まれていますので、今後のボランティア活動に役立てていただければ幸いです。

平成18年3月1日

青葉区地域振興課学校支援・連携担当課長 鈴木保男

子どもとともに学びあうボランティア

青葉台小学校

子どもたちに豊かな経験とさまざまな人との交流を！

青葉台小学校では、多くのボランティアの方がバラエティーに富んだ活動を通じて子どもたちと共に学びあっています。

まずは「ワールド教室」。海外での生活経験が豊富な保護者による、各国の食べ物や言葉・遊びやルールなどを紹介する授業が子どもたちに大変人気があります。その他保護者が中心となって活動しているのは、「図書ボランティア」。朝自習の時間に低学年のクラスに出向き本の読み聞かせをしたり、図書室内の飾りつけや蔵書の整理・修理などをしたりしています。なかには、得意な腕を活かして本棚を作ってしまうお父さんボランティアもいます。

そして何ととっても青葉台小学校の特徴は、子どもとシニアボランティアの方との異世代間の交流で、今年度はシニアボランティアの方と「鎌倉彫」という日本文化を伝承しています。6年生が図工の時間に鎌倉彫に挑戦し、卒業式までには校内に作品を展示する予定です。

先生方の思いを保護者と地域の方がサポート

あざみ野第一小学校

あざみ野第一小学校はいわゆるバブルが始まろうとしていた昭和55年に開校しました。校地内には、せせらぎや池、栽培園、飼育棟、ワイワイランドという名の他校にはない施設があります。しかし四半世紀がたち、様々なメンテナンスが必要になってきました。今年度、耐震補強、外壁補修・塗装、給食室改修が行われ、ワイワイランドの傷みも激しく、保護者の協力を得てそれらの整備や清掃を行いました。

保護者と地域の方の協力体制も形作られ、教科や行事などで積極的な関わりをもち、学校を盛り上げています。また、校内の市民図書室（地域が運営）、「お話しワイワイ」サークル（保護者）、ブックトーク（テーマを決めて関連のある本を何冊か選んで紹介する）を通して、図書室の整備や朝の読み聞かせが行われ、さらには栽培園の植え付けでは近隣農家の方の指導を受けるなど、保護者と地域の方による思いやりに満ちた支援が行われています。

活発な図書ボランティア

あざみ野第二小学校

あざみ野第二小学校のボランティアは学校からの募集で登録し、図書、園芸、コマ廻し、校外活動などに参加するシステムになっています。

読み聞かせは「どんぐりこ」、図書室の整備は「ブックママ」という名で活動しています。ブックママは図書の先生の依頼で図書の整理、整頓、カウンター業務、当番生徒の補助の他、選本（子どものリクエストからリストを作成、中古の本を入手）、学習支援（子どもの調査の手助け、目録作り）、装飾（図書室装飾）、その他（本棚の作成他）と4つのグループに分かれ活発に活動しています。「どんぐりこ」は毎週全学年に対して読み聞かせを実施しています。

昨年は3年生を対象に地域の梨園の見学やケアプラザの見学とお話で地域の方にご協力をいただいたり、図工教育の一貫として地域の方に陶芸を指導していただいたりしました。また5、6年生の総合的な学習の時間に狂言を鑑賞した時もボランティアの力を借りました。

クラブを通した育てのてつなぎ

市ヶ尾小学校

市ヶ尾小学校では、クラブ活動の際に保護者によるボランティアが参加します。球技などのスポーツクラブから料理クラブなど文化クラブまで様々で、年1回の学校からのボランティア募集の呼びかけに応じた9名のボランティアの方が子どもたちのクラブ活動を支援しています。ボランティアの方たちは、時間内生き生きと活発に活動され、子どもたちも先生ではないおとなと触れ合う事で社会性を身に付けていく様子が伺えます。

また、朝自習の時間を使った読み聞かせもあり、みんなが楽しみにしている時間です。工夫を凝らした読み方に引きこまれ、自然に本が好きになる子どもが多いのがボランティアの方の喜びの一つです。

その他、福祉教育の一環として視覚障害者の方をお招きしたり、アイマスク体験で校舎内を回るなどボランティアの手が必要な場面もあります。

豊かな人材 顔の見えるボランティア

美しが丘小学校

美しが丘小学校では読書活動の推進に、地域の方や保護者の図書ボランティアの活躍があります。中休み時間を活用して、地域の方が中心となった昔話お話し会。朝の学習時間や読書の時間を活用したボランティアによる読み聞かせ活動。子どもが本と接する機会を増やしたり、興味を膨らませたりしようと豊かな環境づくりをしている図書室環境ボランティアなどがあります。

安全指導・水泳指導・パソコン操作・昔遊び体験・クラブ活動や各教科の学習活動など様々な場面で保護者や地域の方が教育ボランティアとして参加・活動しています。子どもの安全対応はもちろんの事、学習の意欲づけ、知識や技術の習得など学習活動に大きな拡大や深化が見られるようになって来ました。

教育活動を通して出会った保護者や地域の大人とのふれ合い・関わり・学び合い体験が、顔の見える関係を大切に街のあちこちで関わり合いと豊かさを増しています。

伝統を受けつぎ、未来を拓く

美しが丘東小学校

美しが丘東小学校では1978年の学校創立以来27年間、今でも「米づくり」が行われ、その後始まった「美和太鼓」とともに子どもたちに伝統の重みを身をもって教えています。これらの伝統を受け継ぐ活動はボランティアの方々によって支えられています。一方で近未来の科学のあり方を具現する「ソーラー発電」や「本の読み聞かせ」など子どもの未来を拓く地域の人々のサポートもあります。

美しが丘東小学校の特色の「なかよし活動」（全校縦割り活動）は、思いやりや助け合いの気持ちを育てる目的があります。この活動は異学年を縦割りにグループ編成してみんなで協力して活動するもので、10月には校外指導員を中心に保護者も加わり「地域のクリーン活動」を実施しています。

保護者による「読み聞かせグループ」は学年毎に編成されていて、毎週水曜日の「朝の会」の時間に読み聞かせを行っています。校内には地域の方々の協力による市民図書もあり、子どもたちにも馴染みの深いものになっています。

個に応じた教育の支援

荇子田小学校

横浜市は、平成 19 年度から特別支援教育を市内全域で始めようとしています。今までの「特殊教育」＝障害の程度に応じて特別の場での教育から、「特別支援教育」＝児童一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育的支援を行う特別支援教育の構築が求められています。

荇子田小学校では、特別支援教育コーディネーターの先生を中心に、保護者と教職員が集まり、個に応じた支援を進める話し合いを行っています。また、そこで話し合われた支援内容にそって、担任やアシスタントティーチャーが支援を進めています。あおば学校支援ネットワークからもボランティア 1 名が参加しています。

また、子どもたちの登下校の安全に関しても、危機感をもって PTA や地域が見守り体制を強化しています。パソコンや図書のボランティアも、学習やサマーフリースクールの指導を行うなど活発な学校支援が行われています。

地域と一体になった多彩な学校支援

荇田西小学校

荇田西小学校は区内でも三番目に新しい小学校ですが、地域と一体になった活動が数多く行われている学校です。校舎はとてもユニークなデザインで、廊下に子どもたちの勉強の成果などが掲示されているのが印象的です。

主な活動としては、国語の時間の読み聞かせ、アシスタントティーチャーによる授業サポート、保護者による学区調べの同行など、様々な授業に保護者や地域の方が関わっています。また子どもたちは総合的な学習の時間で稲作体験や鶴見川についての学びなど経験豊かな地域の方に指導を受けています。ダンス（日舞・ジャズ）、科学、イラスト、卓球、バトン、テニスクラブなどの活動における地域の方の参画も盛んです。さらに、荇田西小学校に通う帰国児童に向けての支援活動を行う会もあります。

防犯活動においては、わんわんパトロール・防犯パトロール・下校時強化パトロール・こども 110 番の家の設置などを保護者・地域の方が推進するとともに、登下校時の子どもの安全と挨拶運動を兼ねた「えだにし学援隊」がまもなく始動します。

ワールドルームが英語活動推進のお手伝い

榎が丘小学校

榎が丘小学校は、海外帰国子女教育研究協力校・受け入れ推進地域指定センター校として、永年帰国子女教育に取り組んできました。昭和 63 年の設置以来、「ワールドルーム」の保護者の方々は、学校と一体になって学習及び生活の両面で、海外からの帰国子女児童の新しい環境への適応をサポートしてきました。

榎が丘小学校は今でも帰国子女の児童の転入が多く、大変国際色豊かな学校となっています。現在は横浜市の「地域人材を活用した英語活動推進校」の指定校となっており、英語教育を視野に入れた英語活動を推進しています。これを受けて、英語活動のお手伝いを通してワールドルームの保護者の方々を中心に PTA や地域の方々が、地域の人材として学校の英語活動推進に貢献しています。ワールドルームはその伝統を引き継ぎながら、しなやかにその形を変えて「帰国する子、迎える子の双方を伸ばす」という榎が丘小学校の教育を支援しています。

「本を読んでもる君が好き」

恩田小学校

恩田小学校は、「まち」とともに歩む読書活動推進校として「本が大好きな子ども」の育成を目指し、学校と保護者や地域の方々が一体となって読書推進活動に取り組んでいます。学校の図書室には、明るく温かい雰囲気と子どもたちに読書の楽しさを伝えたいという思いがあふれています。

恩田小学校では 50 名ほどの図書ボランティアの方が、魅力ある図書室作りのために様々な活動をしています。例えば、季節や行事に合わせた飾り付けをしたり、ブックリサイクルや「よむよむマラソンカード」など自然と子どもたちが本を手にする環境を整えたりする工夫をしています。中休みには子どもたちが読み聞かせやブックトークを楽しみに図書室に集まって来ます。読み聞かせやブックトークで紹介された本たちがしっかり整列して、子どもたちに手に取ってもらえるのを今か今かと待っています。まちの人たちが支える恩田小学校の図書室は学校の「へそ」として、子どもたちの学校自慢の一つとなっています。

教室にこだまする英語活動

桂小学校

桂小学校では海外生活や英語教育に携わった経験のある保護者および地域の方が英語活動の時間に参加しています。ある日の1年生の教室では、机を教室の後方に寄せて円形に並べたいすに座った子どもたちが歌やゲームを楽しみながら、自然に英語に親しめるプログラムが繰り広げられていました。クラスごとに2人のボランティアが入り発音の練習などで担任をサポートします。

ボランティアの方々に活動についての感想を伺ったところ、授業の内容を考えて準備をする先生方の負担を心配しつつも、こうした形で授業に参加させてもらうのはとても楽しいということでした。ボランティアが楽しくゲームを進め授業を盛り上げる一方、教育的な指導は適切なタイミングで担任が行うなど、連携がよく取れており、授業支援のボランティアが入ることで質の高い授業が実現した成功例です。

親がも子もと地域の輪

鴨志田第一小学校

鴨志田第一小学校の特色として、コミュニティハウスを兼ね備えた学校であること、学級数・児童数とも区内ではとても少ない学校であるということ、そして縦割り活動（例えば異学年がグループになって遠足の準備や、実際にそのグループで行動する）を積極的に取り入れているということが挙げられます。

有名な活動として、4年前に結成された「親がも子がもの会」による読み聞かせ活動があります。月に一度朝に全学級で行われる読み聞かせ活動は、卒業生の親も参加している地域ぐるみの取組みの一つと言えます。各学級で何の本が読まれるかなどが書かれたお知らせが事前に保護者に配布され、広く開かれた活動と言えます。学校としては、今後は異学年交流を柱とした活動をもっと様々な形の取組みにしたいとのことで、地域の方の積極的な参加が期待されます。

ふるさと村の心に抱かれて

鴨志田緑小学校

鴨志田緑小学校は寺家ふるさと村の近くに位置し、社会科の授業で地域の農業や水田耕作の話を聞いたり、学校農園の日常の世話から5、6年生の栽培委員会の指導まで地域の方には大変協力をいただいています。国語の読み聞かせは毎週水曜日全学級で保護者・地域の方・卒業生の保護者50人位で交代で行っています。毎月最終水曜日には教職員が担任でないクラスに行って読み聞かせをしています。

公園探検では保護者や公園愛護会のメンバーとふれあい、いろいろ教えてもらいました。遠足の同行のボランティアは登録制で、学生・保護者などをお願いしています。クラブ活動はPTAの役員や地域の方に協力していただき、理科、球技、卓球、バスケット、陶芸、音楽、将棋、パソコン、演劇と多岐にわたって指導をお願いしています。過去には高校の理科の教師の方に理科教育を、またシニアの方には家庭調理の補助をお願いしたこともありました。

地域に支えられた伝統の稲作・食育活動

鉄小学校

鉄小学校では、「地域の子どもは地域で育てる」という意識が高く、30年続く稲作活動は種籾から苗作り～田植え～稲刈り～脱穀～収穫祭まで全て地域の指導協力のもと5年生を中心に全学年で行なわれています。

稲作活動を通じての発展的な学習は鉄小学校の伝統です。畑の野菜や梨などの植物の一生を観察する活動も地域の協力で行われていて、田植え、稲刈り、収穫祭などのお手伝いは小規模校とは思えないほどの協力があります。

鉄小学校は学校・地域・保護者・子どもが顔の見える関係でつながっています。収穫祭の竹とんぼ作りや正月の獅子舞・天神祭などの協力もあり、地域の方と元気な挨拶ができるのはこのような活動があるからです。小規模校のため、大学生の補助員がいろいろな活動に参加しています。伝統の地域の力に若い力も加わって、教室の中だけでは味わえない豊かな体験に接する機会が多くあります。

「はなみずき」による多種多様な協力

嶮山小学校

嶮山小学校は青葉区内の小学校の中では比較的規模の小さい学校で、ゆったりとした雰囲気があふれている学校です。そのような環境の中で子どもたちは地域の見守る人々の心に包まれ、多くの方と関わる体験を通して豊かに育まれています。

嶮山小学校では、教育ボランティアの方々が「はなみずき」というボランティアグループに登録し、読み聞かせ・生活科での昔遊び紹介活動・算数の授業補助・クラブ活動・体験活動など様々な場面でサポーターとして活躍しています。「はなみずき」の歴史は古く、まもなく8年目に入ろうとしています。年々登録するボランティアの方の数が増え、現在は登録約60名の方で構成されています。「趣味でやっていたことを子どもたちに教えてみたい」「特技を活かしたい」「古きよき時代のことを語りついでいきたい」などきっかけは様々ですが、「はなみずき」の皆さんは子どもと関わるボランティア活動を楽しんでいます。

ボランティアは強力な学校支援者

さつきが丘小学校

さつきが丘小学校は敷地内にコミュニティハウスを併設し、ボランティア登録者が140名以上を数えるほど、地域に開かれた学校です。ホームページにも、『コミュニケーション能力を、すべての教科学習に生かす』が上げられ、開かれた学校と保護者・地域との連携を目指しています。登下校時にはPTAやボランティアによる防犯パトロール、朝自習には読み聞かせ、《伝承の会》の昔遊びの伝授などボランティアが活躍する場は非常に多く、「子どもたちを地域で育てる」を実践しています。

校舎内の『どきどきルーム』では、平日の子どもたちの様子を見守る地域の方たちの姿がそこにあります。さつきワールド、フェスティバル、運動会など四季折々の学校行事には、PTA・自治会や、親父の会、ボランティアがそれぞれの分野で活躍し、地域を上げて学校を支えています。ボランティアは強力な学校支援者として今日も活躍を続けています。

まちの人が先生

新石川小学校

新石川小学校の校舎内を歩くと「友だち・先生・まちの人 たくさんかかわろう いっしょに学ぼう」というめあての掲示を見かけることができます。近隣の大学の留学生やシニアの方との交流もありますが、特色はこの地域の大人たちが積極的に小学校とかかわっていることで、子どもたちはまちの人とかかわる機会に恵まれています。

畑を借りての野菜作りをはじめとして様々な授業支援があり、土曜塾として楽しみながら参加するどんど焼きや餅つきなどの季節の折々の行事や地域散歩には、親子だけではない異世代の自然な交流や学びがあります。また、夏の夕涼み会は学校・PTA・地域が一体となって開催する区内でも有数の盛大なお祭りで、広い校庭と多才なまちの人々により実現している打ち上げ花火やナイアガラ滝を校庭で眺める子どもたちには、自分の通う学校を、自分の住む地域を大切に思う心が育っていることと思います。

今、芽吹きの時

すすき野小学校

始業式や運動会で自分たちの校歌を生バンド演奏で歌える幸せ！

すすき野小学校の金管バンドは15年の歴史をもっており、毎年4年生から6年生の希望者で編成されています。一般のクラブ活動とは異なり、平日の早朝7時40分から30分間の練習だけでその美しい音色を生み出しています。専門的指導者の確保が難しい中、現在は早朝からの指導を交代で行っている先生方と、早朝の登校の安全見守りや献身的なパート指導を行っている金管バンドの保護者を中心としたボランティアの方たちによって支えられています。

すすき野小学校では、平成16年度からこうした学校支援ボランティアの正式な募集を開始しました。活動の主体は児童の保護者ですが、読み聞かせのグループが図書室整備に取り組み始めたり、おやじの会が企画されたりと、今小さな芽があちこちで育ちつつあります。

トランペット鼓隊を支える地域ボランティア

田奈小学校

田奈小学校は開校 132 年の歴史の古い学校で、地域の学校として自治会員を始め多くの地域の方がさまざまな場面で子どもたちと関わっています。特に高学年の希望者からなるトランペット鼓隊の活動は、地域の方々のボランティアによって支えられています。

この課外活動では、年々参加する子どもの人数が増え、活動内容も充実してきました。それにつれて地区センター祭りなど学校外での演奏の場も増えてきています。週 3 回の朝練習の指導はもちろん、発表の場所への引率、楽器の搬入もすべてボランティアの方たちによるものだそうです。青い制服を身にまとい、楽しそうに演奏するトランペット鼓隊は下級生の憧れの的。70 人から 80 人の隊員の活動を支えるボランティアの方々の大変さも、そういった子どもたちの姿で吹き飛んでいくようです。まさにボランティア活動の真髄をみる思いがします。

よりよい学校環境づくりをめざして

つつじが丘小学校

つつじが丘小学校では、『教育活動を地域へ開く場として』『教育を媒体として子どもと大人をつなぐ』を理念に掲げる、海外での NPO 活動経験のある校長先生のもと、ボランティアの活躍は多方面に渡っています。

国際理解の拠点で、子どもたちの委員会活動に『国際理解委員会』があります。学区内にある留学生会館にボランティアを依頼することも可能です。また個別支援学級では、支援制度で派遣された保護者による支援者がケースに応じて活動しています。『学校自体を地域センターとして活用する』、リサイクル本の各校への回覧など学校図書館の充実のための方法を模索中です。

ボランティアについては、する側のメリットや満足感を満たすことが、継続的なボランティア活動に結び付くと考えているとの事です。新しい学校像を求め、企業 (NPO を含む) とのタイアップなど、より良い学校環境作りを目指し、ボランティア活動のお手本になる可能性が大きい学校です。

ならの子を本好きにする仕掛け人たち

奈良小学校

「今日はマザーズの日だよ。」月1回（個別支援級は週1回）授業が始まる前に読み聞かせの時間があります。お母さんが子どもに本を読んであげたいという思いで全クラスに出向くのは朝の顔の『マザーズ』。

ある日突然図書室の一角に金銀宝石のあふれる宝箱やお菓子の家を出現させ、図書室を訪れる子どもたちを喜ばせる魔法使い集団『図書室お助け隊』。図書室の飾りつけや図書の整理に補修、毎月発行される図書カレンダーの製作など図書室のサポーター的役割を担っています。

放課後は学校開放団体『おはなし会』の時間。おはなしだけでなく、パネルシアターや手遊び、折り紙など子どもたちの楽しみがいっぱい詰まった時間を提供してくれるこの団体は、保護者はもちろん、子どもの卒業後も親は卒業せずに通い続ける元保護者など、地域の方々がたくさんいらっしやいます。奈良小学校ではこの3つの団体による図書支援活動で子どもたちが本に親しむ機会が増えています。

シニアが得意分野を活かして

奈良の丘小学校

奈良の丘小学校は大きなマンションが立ち並び児童数が増加、800名を超える子どもたちが集う学校です。一方で畑も点在する環境にあり、生活科等の授業では地域の農家の方の協力で子どもたちが収穫を楽しみに、おいしい野菜作りに取り組みます。

クラブ活動でも地域のボランティアが活躍しており、子どもたちは専門性の高い茶道や科学などの分野でボランティアからの指導を受けています。ボランティアを探すことは容易ではないこともありますが、科学クラブのサポートをしている方は退職後に得意分野を活かせることをとご本人が学校へ提案し実現した事例で、また一般的にボランティアには継続性が望まれるなか、茶道の指導をする方は学校創立時より活動されているということでした。

多目的な用途を可能にするゆとりある校舎で高齢者にも優しい造りの奈良の丘小学校は、地域と学校の交流の場としても今後期待されます。

国際交流教室で発展学習

東市ヶ尾小学校

東市ヶ尾小学校では地域主催の国際交流教室が全ての学年で実施されています。これは、東市ヶ尾小学校に多くの子どもが通う町内会が地域・学校連携部において、ゲストティーチャーのコーディネートや教材の提供等、企画の段階から全般にわたり担当しているものです。

今年度は、「大きなかぶ」「スーホの白い馬」「三年とうげ」など1年生から4年生までは国語の発展学習を行い、5、6年生は、社会科の領域で米作りの工夫をアジアの他の地域と比較したり、リトアニアで世界平和につくした杉原千畝氏について学びました。教科書から想像していたものを実際に目にしたり、ロシア・モンゴル・韓国・インドなど外国の文化や民族について知り、教科での理解をいっそう深めました。

学校からの希望である複数年の活動を視野に入れて計画されており、子どもたちも毎年楽しみにすることでしょう。

世代を超えて

藤が丘小学校

「藤小でわくわくふれあいまつりをしますので、来てください。」

かわいらしい手紙が毎年シニアグループに届きます。藤が丘小学校の藤小祭りでは、子どもと地域のシニアの方が一緒におもちゃを作ったり、それらで遊んだりするコーナーがあります。地域の方からの呼びかけで始まってから十数年続き、シニアの方は子どもたちからの招待状を毎年楽しみにしています。子どもたちはそのために特別に設けられたスペースに「何か楽しいこと」を求めて集まってきます。子どもも大人もブンブンごま、割り箸鉄砲、折り紙、お手玉などの楽しい遊びに時間が経つのも忘れ、目を輝かせて遊びに興じます。

シニアの方は子どもたちと関わる喜びを、また子どもたちはシニアの方とのふれあいから様々なことを学んでいます。お祭りが終わった後に寄せられる子どもたちからのお礼の手紙と感想文は、シニアの方のボランティア活動の励みとなっています。

子どもの成長を応援する「みたけ夢教育応援団」

みたけ台小学校

「みたけの子どもはみたけで育てよう。」みたけ台小学校では、校長先生のリーダーシップのもと PTA や地域の方々が集まり、「みたけ夢教育応援団」結成に向け動き始めました。「みたけ夢教育応援団」は、子どもの夢を育て子どもの成長を応援する教育の実現のため、学校ボランティアを広く地域に募集・登録する新しいシステムです。

専門的な知識や技術を持った方や学習支援をしてくれる方、クラブ活動や総合的な時間で特技や趣味を発揮してくれる方、他学年の子どもたちのお手伝いをしてくれる保護者の方など、子どもたちの活動を応援できる場はあらゆるところにありますので、幅広く募集します。

平成 18 年 2 月のボランティア登録を前に、「みたけ丸の会」の皆さんが毎月 1 回校長室で校長先生を囲んでランチミーティングや茶話会を行い、お互いに胸襟を開いて話し合っています。保護者や地域の方々が学校からの発信をしつかり受け止め、いよいよ今年の 4 月には注目の「みたけ丸」の出帆です。

シニアから広がるボランティア活動

もえぎ野小学校

「先生、ここの玉止めの仕方を教えてください。」子どもたちの積極的な声が聞こえるこの授業は、もえぎ野小学校の 5 年生の家庭科の時間です。子どもたちは針を休めることなく集中して真剣に取り組んでいます。

「先生」は担任の先生ではなく、家庭科の先生でもありません。これは地域のシニアの方が裁縫の時間に子どもたちに玉止めや運針の指導の補助を行うボランティア活動の一場面です。「先生」はそのシニア先生というわけです。このボランティア活動はシニアの方が学校に行き子どもたちと関わりたいという願いから実現しました。家庭科の先生が用意した時間割に沿って、都合のよい方がボランティアをするシステムになっています。こうすることで安定した関わり方ができるという特徴があります。

この活動がきっかけで、授業の後に給食の時間を一緒に過ごす「ふれあい食事会」をしたり、ミシンかけの授業の補助をしたりと子どもとシニアの方の異世代が交流する活動が広がっています。

子どもの安全を守る「元石川小学校学援隊」

元石川小学校

元石川小学校は、学校と地域が連携して学校の安全管理活動を行う「よこはま学援隊」活動助成制度のモデル校です。元石川小学校では、保護者の父親で組織されるおやじの会の方々を中心に PTA や地域の方が、かねてから登下校時に校門での見守り活動やパトロールを行っていました。助成申請の際にこの普段の活動が認められ、青葉区で最初よこはま学援隊である「元石川小学校学援隊」の結成となりました。赤いジャンパーや腕章など防犯グッズも揃い、PTA とも協力しながら「内からの人の目」としての地域力で子どもたちを守ろうと、ますます毎日の活動に力が入ります。

「おはようございます。」「お帰りなさい。」と子どもたちに声を掛ける「元石川小学校学援隊」の活動は防犯ばかりではなく、地域と子どもたちの交流を深める点でも期待されます。子どもたちは赤いのぼりとお揃いのユニフォームの学援隊の皆さんの姿に親しみと頼もしさを感じています。子どもたちが安全で楽しい学校生活を送れるように、校門前の赤いのぼりが見守っています。

長い歴史の上に新しい力

山内小学校

山内小学校は賑やかなあざみ野駅のそばに位置し、児童数が多い大規模校です。しかし学校の歴史は古く、子どもたちはこの地域の伝統を受け継いでいます。学校の近くの驚神社では毎年秋に神奈川県が無形文化財に指定されている牛込の獅子舞が行なわれ、創立 130 周年の式典には学校に獅子舞が登場し子どもたちの歓迎を受けました。

また学校の募集により、地域の方がクラブ活動をはじめ多くの場面に参加しています。虫博士のお話・米作り体験・盆踊りの指導・もちつき・図書ボランティアなどのほか、3年生のパン作りの授業では、地元のパン屋さんが「パン工場の見学～パンのいろいろな説明～自分たちでパンを作る」ところまで全面的に協力をしています。自分で焼いたパンはきっと美味しいことでしょう。学校のシンボルの大きなケヤキの木に見守られながら山内小学校の子どもたちは、長い歴史の上で保護者と地域の方に支えられて豊かに育っています。

谷本の森に育まれて

谷本小学校

明治6年創立の谷本小学校には、今では珍しくなった学校林『谷本の森』があります。清水が湧き出るせせらぎにいる沢ガニや、いつの頃から住みついたたぬきがいる自然豊かな森ですが、最近までこの森（ナラ・カシ・クヌギなどの雑木林）は立ち入り禁止でした。

この『谷本の森』を貴重な教育資源として整備・保全するため、学校・地域・ボランティア・PTA・NPO 団体が立ち上がりました。安全に学習し、遊べるようにみんなで力を出し合い、春にはチューリップロードが出現し、秋には学校全体が紅葉・黄葉の姿に変わります。実をつけた小枝を片手に「これは『谷本の森』で取れました。名前はわかりますか？」と校舎を回る校長先生の元気な声が今日も響きます。

また、強力な助っ人軍団「たぬきクラブ」は、行事の防犯に気を配ったり、運動会のフォークダンスのアコーディオンを担当したりと親父力で活躍中です。

まとめ

～各校の多彩なボランティア活動の中で見えてきたこと～

＝PTAから地域へ広がる担い手＝

保護者がPTA活動やボランティアとして積極的に学校を支援する一方、より大きな効果を挙げるため地域の方々による支援活動が増えています。

近年、子どもが被害者となる事件が増加しており各PTAでも校外（地区）委員会を中心とする保護者によるパトロール等の防犯活動が活発ですが、小学生の保護者という限られた世代だけでは対応しにくい時間帯も存在しています。わんわんパトロールや学援隊など担い手を地域に広げることで、より多くの目が子どもたちを守り大きな力になっています。

＝専門家に学ぶ＝

教科書や学校の外にある学びの種を上手に集めている例もたくさんありました。お米や野菜、果物作りを教わったり、まち探検で商店を取材したり、地域や昔の話を聞いたり、盲導犬のユーザーの方に話を聞いたり、クラブ活動の指導からネットディでの活躍にいたるまで、様々な専門家の方々が地域に多くいらっしゃいます。

授業・学校支援の可能性を多大に秘める地域力の有効活用として、それらの情報を収集しコーディネートすることが、今後の学校支援の方法の一つになると思われます。

＝本に親しむ機会・環境作り＝

ボランティア活動として特に多かったのは図書に関わる活動です。読み聞かせ等により朝や中休みのわずかな時間も子どもたちにとって豊かな時間となっており、また、図書の分類・整理・補修や図書室の装飾など図書環境整備を行う活動も近年増加していることが分かりました。

長年活動している団体から活動を始めたばかりの団体まで状況は様々ですので、あおば学校支援ネットワーク主催で図書ボランティアのための情報交換会を平成17年12月に設け、多くの学校から図書ボランティアの方にご参加いただきました。このような機会が今後の活動の一助になればと願っております。

＝ボランティアとコーディネーターの必要性＝

訪問した多くの学校でボランティアの必要性が高まっていることが分かりました。コーディネーターの存在や必要性については各々の学校で異なりますが、今回の訪問を活かし、特色づくりが進み多様化する各校の期待に応えられるあおば学校支援ネットワークでありたいと思います。

